

航空分野の飲酒基準の設定と 安全運航の堅持に関する航空連合の取り組み

2019年2月28日
航空連合



1. 航空連合概要

全国労働組合総連合(全労連)

 **日本労働組合総連合会** (連合)

国際運輸労連(ITF)

 **全日本交通運輸産業労働組合協議会 (交運労協)**
Japanese Council of Transport Worker's Unions

【航空労組連絡会(航空連)】
43組合、7,500名

各エアライン運航乗務員組合
一部の客室乗務員組合
外国航空会社関連労組など

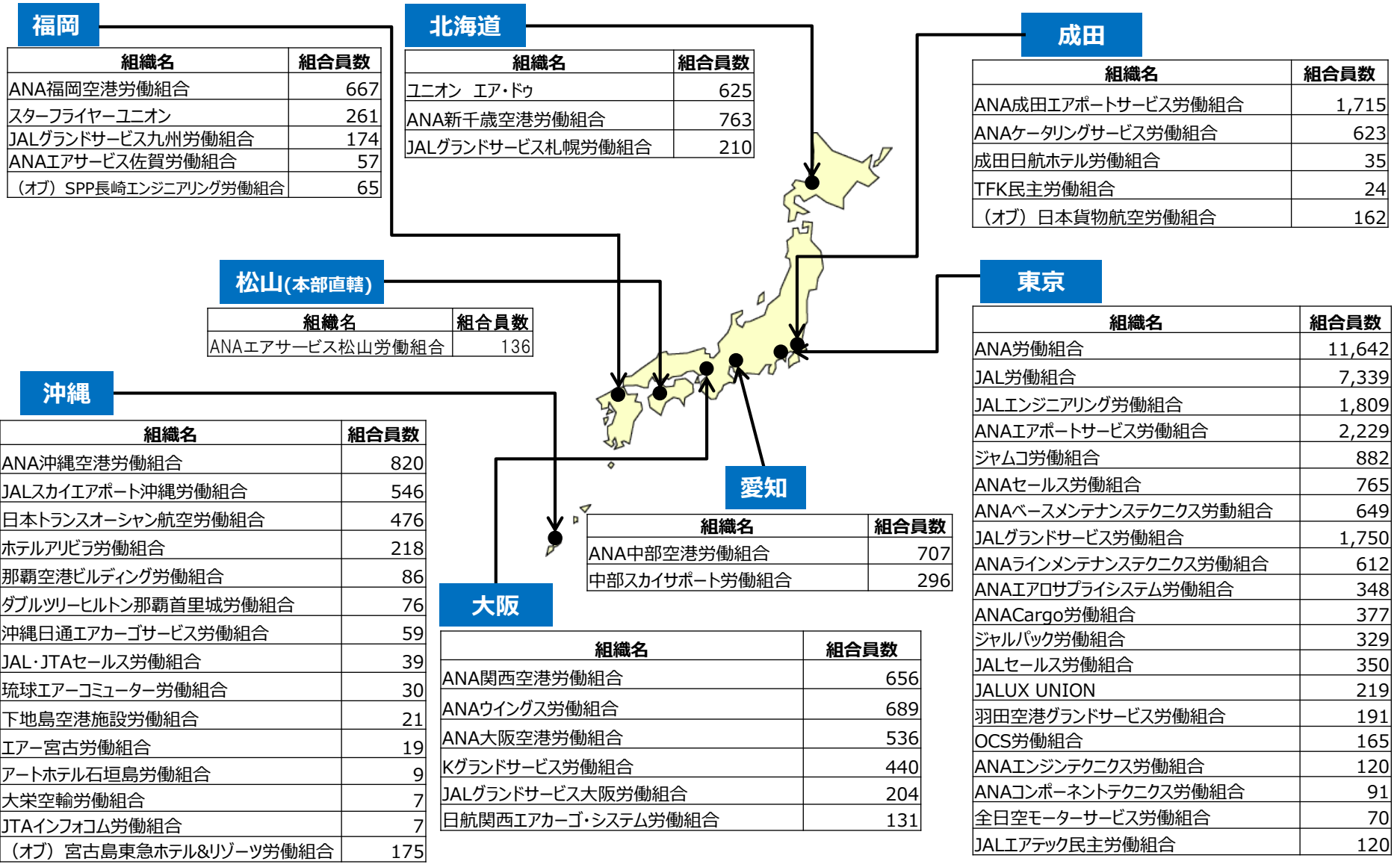


《航空連合》
54組合、41,419名

ANAグループ各労組
JALグループ各労組
空港ハンドリング労組
ホテル労組
空港ビル関連労組など

2018年10月現在

1. 航空連合概要



1. 航空連合概要

安全政策



国土交通省航空局との政策協議

安全啓発



安全シンポジウム



フォークリフト運転競技会

横断機能



安全委員会(職種横断)



客室部会(職種別)

2. 飲酒事案に対する航空連合の受け止め

- 社会に対して航空の安全に対する大きな不安、不信を与えた。
- 安全運航の確保は航空産業の存立基盤であり、今般の事象を重く受け止める。
- 飲酒によって安全に影響を与えることが決してあってはならない。
- 飲酒が安全に及ぼす影響を正しく認識する必要がある。

以上をふまえ、航空連合は

- 個々人の意識改革や職場の風土改革に仲間と協力しながら率先して取り組む。
- 働くものの立場から、必要に応じて関係各所へ働きかけを行い、安全運航を堅持する。



航空に携わるすべての人が「自らのこと」としてとらえることが重要である。
 そのためには、目的を正確に理解し、産業全体で共有する必要がある。



3. 航空連合の今後の取り組み

① 目的意識の共有・意識啓蒙

- ✓ 今後予定している航空連合の各会議において、本検討会における進捗状況や航空連合の受け止めなどを共有し、**組織全体で目的の正確な理解**につとめる。
- ✓ 特に**安全シンポジウム(7月開催予定)**において、有識者による講演を行い、安全意識の啓蒙を図る。

② 意識改革・風土改革の推進

- ✓ **会社、職種横断機能**といった強みを活かし、航空連合の各会議において飲酒に関するグループディスカッションを継続的に実施する。
- ✓ **各職場の取り組み状況を共有**し、自職場に事例を展開することや、行動事例集などを取りまとめ、共有することにより、産業全体の意識改革や風土改革につなげていく。

③ 各取り組みの持続性と発展

- ✓ **産業別組合間の横断機能**を活かし、他業種における取り組み事例の共有や、現場見学などを実施し、航空産業への提言や、継続的な意識改革に取り組む。
- ✓ 対策や意識改革に取り組むなか、職場が直面している課題に対し、**ボトムアップ機能**を活かし、事業者、行政など関係各所に課題や提言を伝え、取り組みを持続、発展させる。